

沖繩本島沿岸資源調査

1. 期間 自1961年4月25日 至1961年4月29日 5日間

2. 調査員 城田空彦 中村船長 奥平氏 当間技手

3. 調査目的

沖繩本島沿岸の資源調査は今日まであまり実施されていないので、今回燃料の有無並に區別資源量の多寡並に其の種類を火光を利用して其の集魚状況を調査した。尚水産普及の目的で調査船回遊丸の化学装備を一般業者、中学生等に実地見学させ、本部漁協組合に於て水産懇談会を開催、業者の質問に答へて指導に当つた。

4. 調査地区(集魚灯試験地)

(イ) 恩納村名嘉真沿岸 1961年4月25日18時~26日06時

(ロ) 東村川田沿岸 1961年4月26日18時~27日06時

5. 調査日程

年月日	出発地	到着地	調査地	備考
1961年 4月25日	泊港	名嘉真沿岸	名嘉真沿岸	時 神受純火光による集魚試験18時~06
"/ 26日	名嘉真			
"/ "		本部港		町漁業者、中学生、回遊丸実地見学 (約2000名)
"/ 27日	本部港			水産懇談会
"/ "		川田沖	川田沿岸	火光に依る集魚試験 研修者4名
"/ 28日	川日			村漁業者、中学生、回遊丸実地見学 約170名
"/ "		糸満港		
"/ 29日	糸満港			町漁業者及中学生回遊丸見学約1000名
"/ "		那覇港		

漁場観測表

月日	時刻	天気	雲量	風向	風力	気温	気圧	波高	波速	水温	比重	水色	水深	観測位置
4/27	20h	B	0	N		18.5		1		21.6C			25m	川田港
	20m		4	1		1013mm		1		25.53				
4/28	18h	c	8	SW	1	24		1		25.7C		4	25m	名嘉真港入口
				1		1010mm		1		25.21				

集魚灯試験の概況

(1) 名嘉真沿岸

使用電力 左舷側 120V 500W 6灯  
右舷側 120V 500W 3灯  
水上灯

名嘉真港は港内外の岩礁地帯は素と少ない方が名嘉真号との直接的なつながりをもつ入江となつて居り、鯉餌料の回游もかなりある模様で前航程からも丸にて底延縄試験の作業灯にイワシ等の大きい群が集魚した。今回は日交から夜明け前記集魚灯を使用して集魚試験を実施して見たが点灯1時間位までは集魚の傾向も見受けられなかつたが、其の後徐々に集魚し始め10時頃までは口は約50個位のキビナゴの群が火光に落付き右廻りに真円を描いた。円の大きさは群巾約7.5mで直径約4mと推察した。群の大きさは略々三段階に区分され、下表の通り単一併でないものと思われた。水温 23.7℃

魚体測定表

魚種	体長	体高	魚種	体長	体高	魚種	体長	体高
キビナゴ	535	2.8	キビナゴ	330	4.3	キビナゴ	264	3.8
"	517	3.1	"	345	4.2	"	201	3.0
"	478	3.1	"	337	4.1	"	250	3.3
"	481	3.0	"	352	4.4	"	225	3.2
"	467	3.1	"	349	4.3	"	219	3.1
"	413	3.0	"	361	4.5	"	232	3.4
"	453	3.0	"	353	4.6	"	227	3.2
"	445	3.7	"	339	4.2	"	241	3.3
"	446	3.4	"	343	4.1	"	232	3.1
"	453	3.7	"	355	4.3	"	243	3.5

(2) 川田沿岸

川田沿岸は有銘号と岩礁地帯を以つてつながり、鯉の餌場としては好適地と思つたが、業が今日の試験場所では集魚せず、シイラの僅か3-4尾程度集つた丈で見込がなかつた。然し乍ら中層では20数尾の池田鯉が群游しているのが確認された。尚点々と餌場を移動して調査すれば好漁場(餌場)の発見も可能性があると推量される。

水温 21.8℃

## 考 察

鯉漁業の進展を図るには現今の餌料難を解消すると云ふ事であり、論ずるまでもないが、火  
光を利用しての漁法は本部漁場の一部にすぎず、全荒船んど旧態依然とした集漁りに依る追込  
式漁法であり、斯様な状態では餌料難の解決はとうてい望の難い。従つて火光利用を奨励する  
前に或程度の調査を実施しておくに、要があるので今回は名高真、川田の両沿岸を選定して調  
査した訳だが、僅か二晩の調査では充分なる成果をあげ得なかつたので、今回は是非補否を調  
査研究をしなければいけないと思ふ。

## 水 産 懇 談 会

日 時	1961年4月27日午前10時—正午
主 催	本部漁業協同組合
出 席 者	本部漁協組合長外15名 水産研究所大嶺所長 坂田漁務係長 当真技手 国南丸船長奥平

### 懇 談 会 鯉餌料について

大嶺所長より開会挨拶あり、次に今回調査した名高真沿岸集魚試験について概況報告を坂田  
係長より説明した。之に対し集魚の種類について質問があつたので、当時集魚した標本を全  
員に見てもらつた。

#### 鯉と水温について 質問あり

坂田係長、鯉の適水温は各県の地区により相違あるが琉球近海では25℃~30℃が適温で  
ある。盛漁期は28℃~29℃である。

本部に於ては八重山が大漁の時には大漁するが、宮古の大漁の場合こちらは不漁であるが、之  
の関係について何等か水温との関係はないか坂田係長は八重山北部より北上する暖流に添ふて  
等水温が本島に接近して更に本島西部より南部に等温線が長崎海洋気象台よりの旬報にあるが  
水温の関係なら之によるものか委しく調査する旨答へた。

所長 日本で鯉の夜釣について研究されて居るが、鯉の夜釣について考へられないか見当する  
必要あり。

其の後、東村川田の調査に出発するので懇談会終る。

糸満町に於ける懇談会は都合に依り中止した。

